

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3月 5日

事業所名 おおいちフォア・アス 1単位目

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	33%	67%		工夫しているが、絶対的なスペースが狭く、足りない。学習スペースを設置したが、ソファがなくなり、体調不良時に休む場がなくなったので、確保できるようにしたい。
	2	職員の配置数は適切である	11%	89%		職員の規定は満たしているが、少ないと感じることがある。利用人数が多い日はもう少し職員が欲しいと思う時がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	22%	78%		段差があつたり、通路が狭いところもあるので、適切とは言えないかもしれない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	67%		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	33%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11%	89%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	67%	33%		研修への参加はしているが、勤務の都合で行きたい研修に行けないこともある。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	89%	11%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	78%	22%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	44%	56%	職員会議、終礼等で子どもの情報共有を行い、プログラムの立案を考えている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	56%	44%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	89%	11%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別活動が主となりがちだが、集団活動も適宜入っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	67%	33%		基本的には支援終了後に行っているが、必要がある場合は支援前に情報を共有するようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	89%	11%		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	78%	22%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	56%	44%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	78%	22%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	67%	33%		送迎時に行っているが、時間も限られているため、細かい共有はできていない。下校時間等は保護者から伝えてもらっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	33%	67%		医療的ケアの必要な子どもの受け入れは現在していない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	56%	44%	相談事業所や保護者から情報を得るようにしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	44%	56%		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	44%	56%	研修に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	11%	89%	直接の交流はないが、外部のイベントに参加し、いろいろな人とかわる機会をつくっている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	11%	89%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	89%	11%	連絡帳の記入や送迎時の伝達を行い、子どもの状況を伝えたり、保護者から聞いたりしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%		ペアレントトレーニングは行っていないが、子どもの支援について保護者と情報を交換し、対応方法等を共有している。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	56%	44%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	89%	11%	できるだけ保護者からの相談は受けている。	適切な助言や支援ができるよう、職員のスキルアップに努めたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11%	89%		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	89%	11%	迅速ではないかもしれないが、対応している。	できるだけ早く対応し、職員間で共有し改善していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	78%	22%	必要な場合に準備して渡すようにしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	89%	11%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33%	67%		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	56%	44%		保護者への周知はできていない。職員への周知も徹底されるよう研修等を行っていききたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		年に2回実施している。曜日によって利用者も異なるので、全ての曜日で実施するようにしているが、子どもによっては何度も参加になったり、欠席等で参加できなかったり、課題は多く、工夫が必要である。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	78%	22%		ヒヤリハットの事例等を元に職場内研修の充実に努めたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	44%	56%		身体拘束を行う事例がないこともあり、職員への周知不足を感じるので、しっかり共有していききたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	33%	67%	医師の指示書はないが、保護者からの情報により、対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	67%	33%		